

日本の「フィジカルAI」大国への道：2040年 1,000万台導入ロードマップ

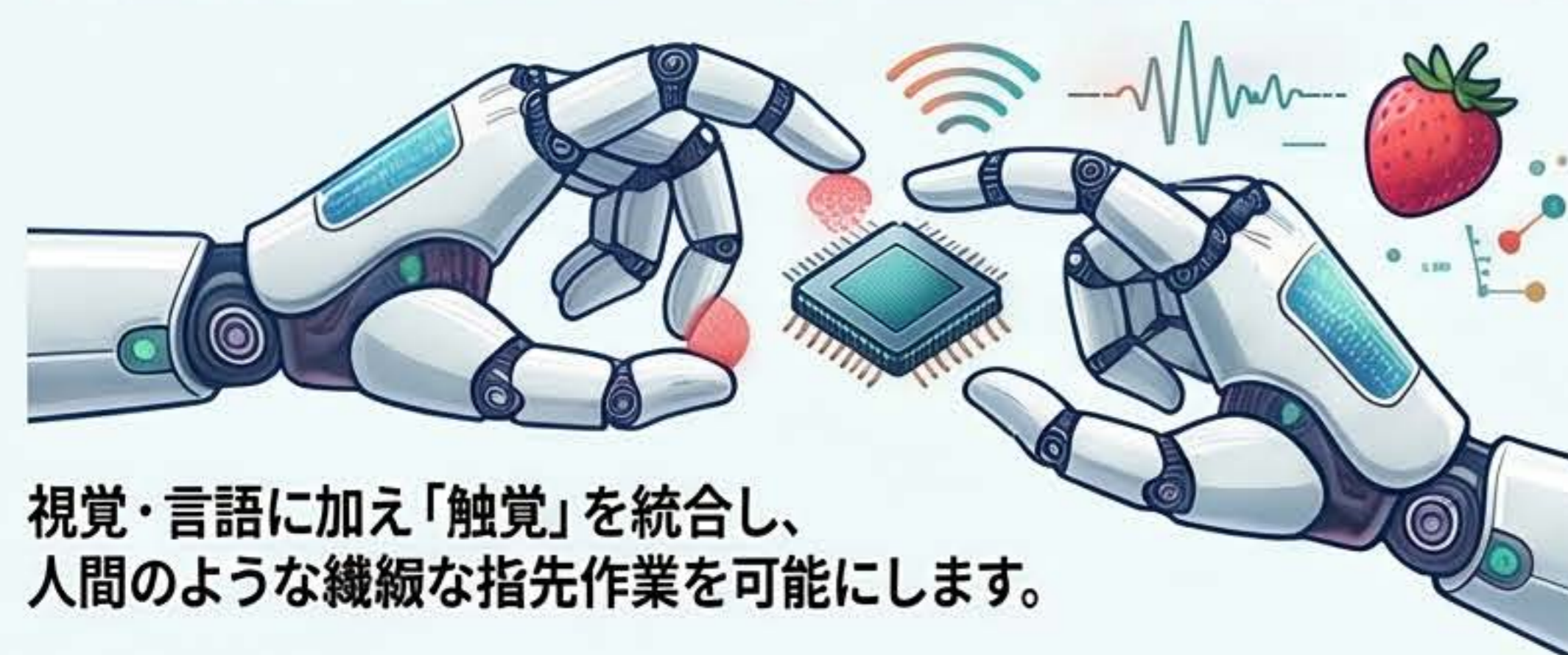
国家戦略の基盤と「フィジカルAI」の衝撃

戦略の目的と社会的インパクト



労働力減少を補完する「代替労働人口」として、社会インフラの持続可能性を確保します。

次世代AI「VTLAモデル」による巧緻動作の実現



最大1兆円規模のステージゲート型支援



2040年に向けた実装ロードマップ

【短期：～2030年】「見廻る・動かす」レベルの実装
点検、搬送、清掃など、比較的単純な認知・判断で成立する8つの共通タスクに注力します。

【中長期：2030年以降】高度な「指作業」の社会実装
介護、医療、農業、食品製造など、複雑な状況判断と器用さが求められる領域へ拡大します。



開発を主導する 主要プレイヤーと役割

Noetra
ソフトバンク、ソニー、ホンダ等による企業
連合。国産マルチモーダル基盤モデルを開発。

三大ロボットメーカー
川崎重工、ファナック、安川電機が連携。
触覚を含むVTLAモデルのデータセットを構築。

AIRoA
実家庭等での10万時間以上の動作データを
収集し、オープンソースで公開予定。

全18分野にわたる
広範な社会実装

従来の物流・建設に加え、
飲食や医療など労働集約的な
「ロングテール領域」へ導入を広げます。